

第2次静岡市環境基本計画について

資料3-1

基本方針

人々が豊かな環境を育み
環境が健やかな人を育むまち・静岡

分野1:生活環境

住み良さを実感できる
生活環境をつくります

【環境目標】

- ①安心安全な生活環境の確保と充実
- ②歴史・文化とふれあう機会の充実
- ③緑あふれる美しいまちの創出
- ④良質な水環境の保全

分野2:自然環境

豊かな自然環境を守り、
次の世代へ繋いでいきます

【環境目標】

- ①南アルプスなどの自然環境・生態系の保全
- ②自然を活用した人材の育成

分野3:地球環境

総合的に地球温暖化
対策に取り組みます

【環境目標】

- ①省エネルギーの推進
- ②地域の特徴を活かした再生可能エネルギーの普及促進
- ③災害に強く環境にやさしいエネルギーの分散化
- ④気候変動に適応した対策の推進

分野4:循環環境

環境に配慮した
廃棄物政策を推進します

【環境目標】

- ①廃棄物のさらなる減量に向けた協働の推進
- ②安定的な廃棄物処理体制の確保

令和3年度 環境指標の進捗状況(新指標)

●…達成(R4目標年度) ○…達成見込み
△…要調整 ×…達成困難 —…中止

分野	No.	指標	基準値 (H29)	最終目標 (R4)	令和3年度		備考 (増減要因、今後の方向性など)	実 行 計 画	ス 南 計 画 ル ブ
					現状値	達成 状況			
生活環境	1	事業者の公害法令順守率	91.3%	92%	91.8%	○	【評価理由】 公害法令順守率はR2年度91.5%からR3年度91.8%に増加し、最終目標に向け順調に取組が進んでいることから、目標達成見込みとしている。		
	2	文化財保護事業に携わる市民ボランティア数	101人	150人	163人	○	【評価理由】 市民ボランティア数はR2年度147人からR3年度163人に増加し、R4年度最終目標の150人に到達していることから、目標を達成する見込み。		
	3	市民一人当たりの都市公園面積	6.33㎡/人	8.0㎡/人	7.0㎡/人	×	【評価理由】 市民一人当たりの都市公園面積はR2年度6.64㎡からR3年度7.00㎡に増加しているが、公園用地の確保が困難な状況が続いており、R4年度末までの目標達成に向け、更なる事業推進が必要である。	☑	
	4	生活排水処理率	83.6%	86.9%	86.4%	○	【評価理由】 生活排水処理率はR2年度85.2%からR3年度86.4%に増加し、R3年度計画(86.1%)比でも最終目標に向け順調に取組が進んでいることから、目標達成見込みとしている。		
自然環境	5	南アルプス主要地域の高山植物種数の維持	13種	15種	13種	○	【評価理由】 H25年度当初に確認した15種については、R3年度においても13種が継続して確認されており、引き続き防塵柵設置・維持管理を継続することで、目標を達成する見込み。		☑
	6	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	86回	100回	65回	×	【評価理由】 R3年度目標値98回に対し未達となったのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、多くの団体が清掃活動を中止したことが要因である。今後感染状況を注視しつつ、活動再開に向け事業周知等を行う。		
地球環境	7	省エネルギーに取り組む市民の割合	57.8% (H30)	62.4%	65.2%	○	【評価理由】 省エネルギーに取り組む市民の割合は、R4年度最終目標62.4%に対しR3年度65.2%まで増加し、今後も地球温暖化対策に関する市民の意識醸成を図り、目標を達成する見込み。	☑	
	8	再生可能エネルギーの導入割合 (H25年度電気使用量比)	23.2%	24.4%	24.2%	○	【評価理由】 再生可能エネルギー導入割合は、R2年度24.04%からR3年度24.2%に増加し、今後もPPAモデルの普及により導入の容量が大きく延びるため、目標を達成する見込み。	☑	
	9	分散型エネルギーを確保した住宅の割合	18.3% (H30)	20.0%	50.9% (参考値)	○	【参考値について】 H30年度(基準年度)の市民意識調査と比較し、R3年度は、イベント来場者を対象にアンケート調査を実施したため、年代、世帯構成等、対象に大きな差異があることから、参考値としている。	☑	
	10	気候変動に対応するための体制整備	・庁内勉強会 ・施策整理	整備	全庁及び市民に対する熱中症警戒アラート周知	○	【評価理由】 国や県等との連携体制を確立するとともに、庁内連携を進めており、概ね計画通り進行しているため、目標を達成する見込み。	☑	
循環環境	11	一人1日当たりのごみ総排出量	928g /人日	856g /人日	872g /人日	○	【今後の方向性】 R2年度実績から減少となったが、最終目標達成に向け、更なるごみの減量化を推進していく。	☑	
	12	最終処分場への埋め立て量	9,126t /年	7,710t /年	8,395t /年	△	【評価理由】 不燃・粗大ごみのうち、可燃性物質の組成割合が増加し、埋立処分する飛灰の量が増加したため、前年比で埋め立て量が増加した。最終目標達成に向け、更なるごみの減量化を推進していく。		

<次期計画策定に向けた令和3年度進捗状況の課題分析>

- 「No.6河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数」が新型コロナウイルスの影響を受け目標未達であった。
⇒第2次計画策定以降、大きく社会情勢や環境が変化したため、社会の変化に柔軟に対応する視点が求められる。
⇒環境への取組みの実践率が低い市民に対しても、環境保全活動等を推進していく必要がある。
- 「No.7省エネルギーに取り組む市民の割合」が最終目標値を超え、良好な達成状況である。
⇒気候変動や地球温暖化問題への市民の関心が高まっていることが推測され、重点的に取り組むべき課題と位置付ける必要がある。
- 全体を通しての課題
⇒環境問題には市民・事業者・行政の連携が必要不可欠であるため、より分かりやすい計画を策定し、環境の取組みを活発化させたい。

第2次静岡市環境基本計画
環境指標進捗状況 個票
(令和3年度末時点)

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる 生活環境をつくります
----	------	------	-----------------------

項目 01					
指標名	事業者の公害法令順守率				
指標値	92%以上	時点	最終年度	方向性	維持・向上
目標	市民が豊かな環境からの恵みを享受する基盤となる、「安心・安全な生活環境」の確保と充実を図ること				

指標の内容	定義	「立入調査によって、大気（ばい煙、ダイオキシン、VOC）、水質に関する排出基準等の順守が確認された事業所数」／「立入調査を行った事業所数」により算出
	概要	第3次静岡市総合計画に掲げる「安心・安全な生活環境の確保と充実」を実現するため、事業者による公害法令の順守を徹底し、市民の健康に悪影響を及ぼす要因を排除する。 【代表的な取組み】 ・事業者等への定期的な立入調査、指導による適正管理の推進 届出のある全事業者に対する立入調査を実施（3～5年で全事業者1周を目途） 違反のあった事業者に対しては、継続して調査、指導を実施 ・化学物質の排出に係る、届出の受理及び審査、排出量や移動量の公表 ・事業所の環境保全対策への取組み支援 ※ 長期的には、「法令順守率100%」の達成を目指しているが、 本計画の期間中における現実的な成果指標として、順守率の改善を前提とした各年度の目標値を設定している。

報告	計 画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)		
		87%	－	－	－	90%	－	－	－	92%		
	実 績		90.0%	88.3%	91.3%	95.3%	91.2%	91.5%	91.8%			
			○	○	○	◎	○	○	○			
	参 考	公害苦情の件数										
				H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		悪臭	事業活動	28件	27件	34件	25件	30件	23件	16件	24件	
			上記以外	1件	5件	9件	11件	11件	7件	12件	3件	
		騒音	事業活動	105件	75件	71件	91件	63件	53件	53件	76件	
			上記以外	10件	17件	16件	7件	17件	19件	15件	10件	
		振動	事業活動	1件	4件	3件	7件	11件	2件	5件	5件	
			上記以外	2件	1件	1件	0件	0件	0件	1件	1件	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる 生活環境をつくります
----	------	------	-----------------------

項目 02

指標名	文化財保護に携わる市民ボランティア数				
指標値	150人以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	歴史・文化とふれあう機会の充実により、歴史文化遺産や自然環境の保全活動に関わることのできる「人づくり」を推進すること				

指標の内容	定義	文化財保護活動や情報発信を担う市民ボランティアである、「文化財サポーター」について、入門講座を受講し、サポーター登録をした人数を集計する。
	概要	「文化財サポーター」の養成事業や、サポーターと連携した文化財関連事業の実施によって、市民主体の文化財保護を推進する。 【代表的な取組み】 ・「文化財サポーター養成事業(H25～)」による市民ボランティアの養成 ・歴史文化遺産の保全、活用事業をサポーターと連携して実施 令和3年度実施事業（全5事業） ① 静岡市文化財清掃業務 ② 賤機山古墳案内(小中学校の見学に対応。事前にサポーター講習を受講) ③ 歴史文化施設プレ事業(プレ事業運営補助) ④ 家康手植えのミカンの収穫事業 ⑤ きゃっしる現場解説

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		35人	-	-	-	100人	-	-	-	150人
	実績	/	58人	103人	101人	122人	133人	147人	163人	
	進捗		○	○	○	○	○	○	○	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる 生活環境をつくります
----	------	------	-----------------------

項目 **03**

指標名	市民一人当たりの都市公園面積				
指標値	8.0㎡/人以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	緑あふれる美しいまちを創出し、都市環境及び市民の生活環境の向上を図ること				

指標の内容	定義	「都市計画区域内における公園面積」／「都市計画区域内における人口」により算出
	概要	市の財政状況を踏まえた計画的な公園整備と、無償借地公園制度等の新たな手法の導入によって、都市計画区域内における公園面積を拡充する。 【代表的な取組み】 ・「みどりの基本計画」に基づく計画的な公園の整備 「みどりの基本計画」における将来の都市公園配置計画実現に向けて公園整備を進めていく。 長期目標として、概ね15年後(令和15年度)において、市民一人当たり22㎡/人の整備目標を掲げている。 ・無償借地公園制度の推進(平成26年度～) 民間の土地所有者から無償で土地を借り受け、市と地域住民が協働して公園としての整備、供用後の管理を行う事業。 土地所有者は、税制上の優遇が受けられ、土地管理の負担が軽減される。 ※令和元年度末時点での整備実績 三保陽だまり公園(H28.2供用開始)、吉川南公園、北・西ノ条公園(R1.12供用開始)、富士見台二丁目公園(R2.12.26供用開始)

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		6.0㎡/人	-	-	-	6.7㎡/人	-	-	-	8.0㎡/人
	実績	/	6.2㎡/人	6.27㎡/人	6.33㎡/人	6.51㎡/人	6.58㎡/人	6.64㎡/人	7.00㎡/人	
	進捗		○	○	○	○	○	×	×	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる 生活環境をつくります
----	------	------	-----------------------

項目 **04**

指標名	生活排水処理率				
指標値	86.9%以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	健全な市民生活の基礎である、良質な水環境の保全を推進すること				

指標の内容	定義	「公共下水道への接続人口＋農業集落排水への接続人口＋合併処理浄化槽の推計使用人口」／「市の人口」により算出
	概要	健全な水環境の確保と清らかな河川を保全するために、地域の実情に応じた効率的かつ適正な処理区域を設定し、汚水処理事業の整備を推進する。 【代表的な取組み】 ・下水道事業計画区域内の公共下水道の整備の推進 ・合併処理浄化槽の設置及び公共下水道への接続の促進 - 市広報媒体を活用した情報の提供 - 地元説明会の開催 ・合併処理浄化槽設置整備事業補助制度の活用

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)		
		80.7%	84.8%	85.6%	86.2%	84.0%	84.7%	85.4%	86.1%	86.9%		
	実績		82.6%	83.3%	83.6%	83.7%	84.4%	85.2%	86.4%			
			進捗	○	○	△	○	○	○	○		
	参考	指標内訳										
				H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		下水道		71.59%	72.89%	74.45%	74.82%	75.00%	75.78%	76.46%	78.15%	
		農業集落排水		0.52%	0.53%	0.49%	0.49%	0.49%	0.49%	0.48%	0.48%	
		合併処理浄化槽		8.59%	9.19%	8.38%	8.27%	8.21%	8.15%	8.21%	7.79%	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

分野	自然環境	基本目標	豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	------	------	------------------------

項目 05

指標名	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物種数の維持				
指標値	15種	時点	最終年度	方向性	維持
目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境を、次世代へ受け継いでいくこと				

	定義	南アルプス千枚小屋周辺に設置した防鹿柵内の3地点における、植生調査での高山植物の確認種数を集計 ※植生調査の手法：専門家によるブラウン・プランケ法での調査
指標の内容	概要	ニホンジカによる食害等の影響によって、以前(1970～90年代頃)に比べ多様性が減少していると考えられている。 南アルプス地域の高山植物を将来世代へ引継いでいくため、ニホンジカによる食害の影響を軽減する施策を実施し、高山植物の保護を図る。 【代表的な取組み】 ・防鹿柵の設置・維持管理による食害の軽減 千枚小屋周辺(オサクラソウ生育地)に設置した防鹿柵の、継続的な維持管理を実施する。 ・「高山植物保護セミナー」による保護活動の担い手の育成 市内高校生を対象とした、高山植物の食害についての学習と、その対策としての防鹿柵の維持管理体験を通して、将来に渡り南アルプスの保全活動を担うための人材を育成する。

※()内は、基準年度に確認された15種のうち、各年度でも発見された種数

計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種
	実績		31種 (14種)	35種 (14種)	34種 (13種)	31種 (13種)	33種 (13種)	33種 (13種)	33種 (13種)
進捗			○	○	○	○	○	○	○

報告

参考

植生調査の概要

調査地点図

千枚小屋周辺
・ 原生保護樹 (防鹿樹) (榎樹)
(5カ所 総延長約 750m)
① H25 年度設置 延長約 220m
② H25 年度設置 延長約 130m
③ H26 年度設置 延長約 200m
④ H26 年度設置 延長約 50m
⑤ H27 年度設置 延長約 150m

C 千枚小屋東湿地地(③) : 26種

B 千枚小屋裏(②)
(斜面上部) : 19種

A 千枚小屋裏(①)
(斜面下部) : 22種

調査地点：3地点(左図A～C) 調査範囲：各地点5×5m
調査回数：年3回(6～8月) ※指標比較は8月下旬調査
確認種内訳：別紙のとおり

ミヤマシシウド(柵内)

ミヤマシシウド(柵外) 食痕

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

確認された高山植物の内訳

別紙

・調査日 8月下旬

・調査場所 千枚小屋裏（斜面下部）、千枚小屋裏（斜面上部）、千枚小屋東湿性地

科名	種名	平成25年度 (基準年)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
タデ	イブキトラノオ	○	○	○	○	○
	タカネスイバ	○	○	○	○	○
キンポウゲ	ホソバトリカブト	○	○	○	○	○
	サンリンソウ	○	○	○	○	○
	サラシナショウマ	○	○	○	○	○
	ミヤマキンポウゲ	—	○	○	○	○
	カラマツソウ	○	○	○	○	○
	シナノキンバイ	—	○	○	○	○
	ミヤマオダマキ	—	○	○	○	○
メギ	サンカヨウ	—	—	—	—	—
オトギリソウ	シナノオトギリ	—	○	○	○	○
フウロソウ	タカネグンナイフウ	—	○	○	○	○
	ハクサンフウロ	○	○	○	○	○
スミレ	キバナノコマノツメ	—	○	○	○	○
アカバナ	イワアカバナ	—	○	○	○	○
セリ	ミヤマシシウド	○	○	○	○	○
	ミヤマセンキュウ	—	○	○	○	○
サクラソウ	オオサクラソウ	○	—	—	—	—
ゴマノハグサ	トモエシオガマ	—	○	○	○	○
	エゾシオガマ	○	○	○	○	○
キク	オオヨモギ	—	○	○	○	○
	コウモリソウ	—	○	○	○	○
	センジョウアザミ	○	○	○	○	○
	マルバダケブキ	○	○	○	○	○
	ミヤマコウゾリナ	—	—	—	—	—
	ミヤマヒゴタイ	—	○	○	○	○
	ミヤマアキノキリン	—	—	○	○	—
	ヤマハハコ	—	○	—	—	—
ユリ	マイヅルソウ	○	—	—	—	—
	オオバタケシマラン	—	—	—	—	○
	バイケイソウ	○	○	○	○	○
イネ	イワノガリヤス	—	—	—	—	—
	コメススキ	—	○	○	○	○
	タカネノガリヤス	—	○	○	○	○
	ミヤマドジョウツナ	—	—	—	—	○
	イブキヌカボ	—	—	—	○	—
	ハクサンイチゴツナ	—	○	○	○	○
	カラフトドジョウツ	—	○	○	—	—
イグサ	ミヤマヌカボシソウ	—	—	—	○	○
アブラナ	ヤマハタザオ	—	—	○	○	○
ナデシコ	タカネナデシコ	—	—	○	—	—
カヤツリグサ	スゲ属植物※1	○	○※1	○※1	○※1	○※1
	(ヒメスゲ※1)	—	○	○	○	○
	(キイトスゲ※1)	—	○	○	○	○
発見種数		15種	31種	33種	33種	33種

※1 基準年度（平成25年度）に確認された「スゲ属植物」については、種名の特定ができていないため、同じスゲ属に属する種の確認状況により、保全状況を推計している。

※2 網掛け部分 は、基準年度（平成25年度）に確認された種。

分野	自然環境	基本目標	豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	------	------	------------------------

項目 06

指標名	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数				
指標値	100回	時点	目標年度	方向性	向上
目標	持続可能な自然の利活用の推進により、自然環境の保全に主体的に取り組む人材を育むこと				

指標の内容	定義	安倍川・藁科川・興津川での清掃活動を通じ、市民の環境保全意識の向上を図る、「河川環境アドプトプログラム」の登録団体の延べ活動回数を集計
	概要	市民ボランティアの参加による環境保全事業を実施するとともに、環境教育や普及啓発等の「伝える活動」により、こうした環境保全活動に主体的に参加する人や、将来の活動を担う人材の育成を図る。 【代表的な取組み】 ・環境ボランティア事業の実施 興津川クリーン作戦、玉川クリーン作戦、藁科川クリーン作戦、河川環境アドプト事業、高山植物保護セミナーを継続して実施している。 - 各事業実施にあたっては、広報誌やWEBサイト等を活用し広く周知するとともに、市内の事業者等に協力を呼びかけ、多様な主体から多くの参加者を募っている。 ・環境保全に関わる人材育成 地域や学校等における環境教育や、環境保全活動を率先して行うリーダーの育成等を継続的にを行い、主体的に環境ボランティアなどの活動に参加する「人づくり」を推進している。

報告	計画	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度 (基準年)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
					86回	92回	94回	96回	98回	100回
	実績					116回	85回	57回	65回	
	進捗					◎	×	×	×	
	参考	活動者数			951人	1,235人	1,304人	559人	974人	
		登録団体数			110団体	116団体	120団体	124団体	57団体	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 07

指標名	省エネルギーに取り組む市民の割合				
指標値	62.4%	時点	目標年度	方向性	向上
目標	省エネルギーの推進により、市域の温室効果ガス総排出量を削減すること				

指標の内容	定義	市民意識調査により節電・節水にいつも取り組んでいる市民の割合により算出
	概要	民生部門、産業部門における温室効果ガス排出量を削減するため、市民及び事業者に対する、省エネルギーに関する普及啓発や省エネルギー設備等の導入促進等によって、電力使用量の削減を促す。 【代表的な取り組み】 ・普及啓発 市民等の省エネルギーに関する理解や取り組みの促進のため、様々な主体と連携し啓発活動を実施している。 ※平成30年度実施例 清水エスパルスと連携した「COOL CHOICE」の普及啓発 次世代エネルギーパークツアー クールビズ、ウォームビズ 等 ・事業者への支援 中小企業者向け省エネアドバイザー派遣事業 中小企業者に「省エネアドバイザー」を派遣し、省エネルギー対策に係る指導及び助言、二酸化炭素削減計画の策定支援等を実施 - 中小企業者省エネルギー設備導入事業補助金 事業所に省エネルギー設備を導入する中小企業者に対し、導入に係る経費について補助金を交付 - エコアクション21取得事業者支援事業 事業者による自主的な廃棄物抑制や環境負荷低減のための取り組みを促進するため、エコアクション21取得のためのセミナーの開催や取得事業者に対する補助金交付を実施

報告	計画 実績 進捗	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度 (基準年)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
						57.8%	58.9%	60.1%	61.3%	62.4%
						57.8%	49.9%	47.2%	65.2%	
						○	△	△	○	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 08

指標名	再生可能エネルギーの導入割合（H25年度電気使用量比）				
指標値	24.4%以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	再生可能エネルギーの導入促進により、市域の温室効果ガス総排出量を削減すること				

指標の内容	定義	「市内の再生可能エネルギー発電施設の発電見込み量」／「平成25年度（基準年度）の電気消費量」により算出
	概要	再生可能エネルギーの導入支援等によって、市内における再生可能エネルギー設備の普及を促進する。 【代表的な取組み】 - 再生可能エネルギーに関する環境教育の実施 市内の市有、民有の再生可能エネルギー設備を用いた見学会の開催や見学ルートの設定、周知等により、再生可能エネルギーに対する理解の促進を図る。 - 家庭、事業所、公共施設等への普及 公共施設への率先した再生可能エネルギー設備の導入や、国や県の補助事業に関する情報発信等を通して、市域への再生可能エネルギーの導入を促進する。 - 地域おこしを軸とした再生可能エネルギー導入の促進 市民や事業者との協働により、中山間地等における再生可能エネルギーを活用した地域活性化の取組みを支援する。 - 卒FIT電源の公共施設への活用 FIT後も安心して売却できるスキームを確立するとともに、小中学校へのエアコン設置に伴う電気使用量増加に対し、負荷の低い電源を活用する。 ※ 再生可能エネルギーの導入割合を算定するにあたり使用している太陽光発電量については、令和元年11月から順次、固定価格買取制度が満了することに伴い、従来の手法での算定が困難となった。そのため、「固定価格買取制度 情報公開用ウェブサイト（経済産業省 資源エネルギー庁HP内）」で公表されている太陽光発電の新規認定及び移行認定された導入量を用いて、算定している（太陽光発電の新規認定及び移行認定された導入量については、令和元年12月末時点の数値を使用）。なお、「【基本目標②-1】再生可能エネルギーの導入割合（H25年度電気使用量比）」及び「【基本目標④-2】森林整備面積」については、当初設定した目標値を達成したため、再生可能エネルギー導入割合に係る直近3か年の伸び率等を基に、上方修正している。

報告	計画	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度 (基準年)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
					23.2%	23.3%	23.4%	23.5% 24%	23.5% 24.2%	23.6% 24.4%
	実績				23.2%	23.4%	23.8%	24.04%	24.20%	
	進捗				○	○	○	○	○	

【進捗状況凡例】◎：達成(R4目標年度) ○：達成見込み △：要調整 ×：達成困難 ー：中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 09

指標名	分散型エネルギーを確保した住宅の割合				
指標値	20.0%	時点	目標年度	方向性	向上
目標	エネルギーの分散化を推進することにより、環境負荷を低減するとともに防災力を強化すること				

指標の内容	定義	市民意識調査における「分散型エネルギーを確保した住宅の割合」を算出
	概要	エネルギーの分散化の取組みを支援・促進する。 【代表的な取組み】 ・静岡市水素エネルギー利活用促進協議会運営 静岡市水素エネルギー利活用促進ビジョン・アクションプランの進捗管理 ・静岡型水素タウン促進事業 普及啓発事業を行い市民の水素エネルギーに対する意識を醸成 ○る・く・ると連携した科学教室 ○出前授業 ・静岡型水素タウン促進事業補助金 家庭用燃料電池、業務用燃料電池、燃料電池自動車の導入費用の一部を助成

報告	計画	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度 (基準年)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
	実績					18.3%	18.7%	19.2%	19.6%	20.0%
	進捗					18.3%	31.8%	50.8% (参考値)	50.9% (参考値)	
						○	○	○	○	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 10

指標名	気候変動に対応するための体制整備				
指標値	整備	時点	目標年度	方向性	確保
目標	気候変動により既に起きつつある、又は避けられない影響に適応するための対策を推進すること				

指標の内容	定義	適応に関する施策を推進するための体制整備状況を確認
	概要	市内での適応の取組みや普及啓発を推進するため、関係機関との協力体制を構築する。 ※適応策の推進については、国による取組みも始動段階であり、今後、国際的・全国的な動向が考えられるため、まずは体制整備を目標とし、目標年度内に整備が完了した場合には、その時点での情勢を踏まえた指標を再設定する予定。 【代表的な取組み】 ・適応策に関する学習会、情報共有の機会の創出 ・適応策として位置づけ可能な取組みの洗い出し ・関係機関との協力体制構築 【体制整備後の取組み(予定)】 ・気候変動による静岡市への影響予測、調査

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		未整備	-	普及啓発・情報共有			関係機関との調整			整備
	実績		-	庁内での連携体制構築	・庁内勉強会 ・施策整理	・庁内勉強会 ・施策整理	適応策 アクションプラン 策定	適応策啓発 ハンドブック の作成・配布	全庁及び市民に対する 熱中症警戒アラート周知	
	進捗		-	○	○	○	○	○	○	
	参考	指標の変更について ※平成29年度に指標変更 前指標である「適応計画の策定」については、平成28年3月に策定した「第2次静岡市地球温暖化対策実行計画」内で「適応策編」として計画を策定し目標達成済みであるため、平成29年度に指標を変更し、外部機関も含めた適応策推進のための「体制整備」を目標とした。								

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	循環環境	基本目標	環境に配慮した廃棄物政策を推進します
----	------	------	--------------------

項目 11

指標名	一人1日当たりのごみ総排出量				
指標値	856g/人日以下	時点	目標年度	方向性	削減
目標	廃棄物のさらなる減量により、循環型社会の形成を図ること				

指標の内容	定義	「ごみ焼却施設への年間搬入量」/「(人口×365(うるう年は366))」により算出
	概要	4R(①発生抑制(Refuse)②排出抑制(Reduce)③再使用(Reuse)④再生利用(Recycle)を一言で表す言葉「もったいない」をキーワードに掲げ、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協働して各種ごみ減量施策を推進する。 【代表的な取組み】 ・静岡県「もったいない運動」の推進 ・資源循環啓発施設を中心とした環境教育の推進 ・事業系ごみの減量化・資源化の推進 ・多量排出事業所への立入調査、減量化計画書の提出、管理責任者の選任を指導

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)			
		1,008g/人日	975g/人日	959g/人日	942g/人日	926g/人日	904g/人日	887g/人日	872g/人日	856g/人日			
	実績		959g/人日	944g/人日	928g/人日	935g/人日	940g/人日	900g/人日	872g/人日				
			進捗	○	○	○	△	△	△	○			
	参考	総排出量の内訳											
		家庭ごみ(1人1日あたり)			H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		目標				704g/人日	693g/人日	683g/人日	673g/人日	640g/人日	629g/人日	617g/人日	606g/人日
		実績				727g/人日	687g/人日	672g/人日	659g/人日	668g/人日	661g/人日	664g/人日	638g/人日
		事業系ごみ(年総量)											
		目標				69,554t	67,569t	65,564t	63,705t	67,527t	66,008t	64,489t	62,970t
実績				73,717t	70,749t	70,373t	69,382t	68,543t	71,246t	60,016t	59,096t		

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

分野	循環環境	基本目標	環境に配慮した廃棄物政策を推進します
----	------	------	--------------------

項目 12

指標名	最終処分場への埋め立て量				
指標値	7,710t以下	時点	目標年度	方向性	削減
目標	将来にわたって安定的な廃棄物処理体制を確保すること				

指標の内容	定義	最終処分場への年間埋立量を集計
	概要	ごみ減量の取組みと併行して廃棄物の資源化を推進することで、最終処分場の延命化を図る。 【代表的な取組み】 ・集団資源回収活動への支援 ・小型家電リサイクルの推進 ・「溶融スラグ」の有効利用 本市公共工事での利用拡大 新たな利用方法についての研究推進(平成29年度に肥料として仮登録) ※溶融スラグ:ごみやごみの焼却灰を1200℃以上の高温で溶かした後、冷却、固化させたもの

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		14,477t	14,174t	13,798t	13,437t	13,111t	8,275t	8,103t	7,899t	7,710t
	実績	/	13,023t	12,836t	9,126t	9,381t	9,217t	8,211t	8,395t	
	進捗		○	○	○	○	△	△	△	

【進捗状況凡例】◎:達成(R4目標年度) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止